

各分掌の重点努力目標(具体的目標)

1 総務部

- ・行事等の集会時に生徒が自主的に整列できるようにする。
- ・35人学級となり、生徒が身の回りの整理整頓ができやすい環境を整える。
- ・現有備品や特別教室の有効活用や整理整頓に努める。
- ・学校防災委員会と連携して、年3回の避難訓練を実施する。内1回は、地域と連携した避難訓練を実施する。
- ・創立90周年に向けて、同窓会組織等の充実・活性化と周年事業の立案・準備に早期に取り組む。
- ・校歌と県民歌を生徒一人一人が大きな声で歌えるように方策を講ずる。

2 教務部(研修)

- ・生徒の学力に対応した効果的な指導を実践する。
 - ・平成28年度教育課程を編成する。特にSTのあり方を検討する。
 - ・評価及び成績処理を適切に行う。
- (研修部)
- ・校内授業参観、5年経験者研修、校内一斉授業研究会等を通して研修意識を高める。
 - ・連携を密にし、相互の授業研究会や講座等に積極的に参加する。

3 農場部

- ・地域が抱える課題について、生徒自らが分析し、解決するための手だてについて考え、実践しようとする姿勢を身に付けさせる。
- ・専門性を深化させる研究活動が実践できるように支援する。
- ・地域への貢献や交流活動を通して、社会性を身に付けさせる。

4 生徒指導部

- ・金農三生活信条を教室に掲示し意識付けを行う。
- ・制服、実習服、体育着等について学年部、学科等との連携を図り、整容指導を実施する。
- ・校長室、職員室、昇降口指導などあらゆる機会を捉えて職員一丸となり礼法指導を徹底する。
- ・携帯電話等は、登校時に預かり指導を実施する。また、使い方のマナー指導も集会時等を利用して指導の徹底を行う。

5 特別活動部

- ・地域への貢献や交流活動を通して、社会性を身に付けさせるための指導の在り方を充実させる。(部活動でもキャリア教育を充実させる)
- ・充実した学校行事を通しての自主性・社会性の育成と人間教育を実践する。
- ・「スポーツ金農」「文化金農」としての深化充実させる。
- ・強化部の全国頂点を目指した指導体制の確立と支援体制を充実させる。
- ・生徒の人格や人権を尊重した信頼関係の構築と、安全管理体系を図る指導を充実させる。
- ・文武両道を目指した部活動を推進する。
- ・同窓会との連携による事業の計画・立案する。
- ・運動部に強化部を指定し、全国大会上位入賞を目指す。

6 進路指導部

- ・学科関連への就職・進学者の割合を45%とする。
- ・国公立大学への進学者を進学者の10%とする。
- ・社会的・職業的に自立した人間力を身につけさせる指導を徹底する。

7 健康教育部(教育相談部)

- ・意識調査を実施し各学年で状況を把握し、学校生活をサポートする。
- ・「整理整頓」を徹底し、校舎を美しく維持する。
- ・自分自身の健康状況を把握し、心身を健やかに保つ。(教育相談)
- ・保護者や校内外からの情報を収集し、多角的に生徒の情報を把握する。
- ・本人の状況に応じた支援を図る。
- ・場合によっては関係機関・他制度による支援を求める。
- ・すべての職員が情報を共有し、組織的に検討し、他機関との連携を図る。

8 教育情報部

- ・年度当初、職員研修を実施し、情報提供・啓蒙活動を行う。
- ・機会を捉え、webページの更新を行う。定期更新として各学期1回は更新する。
- ・従来通り、パソコン室の利用促進を図るとともに、普通教科でも利用促進を図る。
- ・情報・視聴覚機器は、各学期1回は点検する。事務と相談し、機器の更新に努める。

9 生物資源科

- ・実習現場での金農三生活信条の指導を徹底する。
- ・各種農業研修会への参加、各種イベント・あぐり交流での農産物販売実習を積極的に実施する。
- ・長期インターンシップの充実と専門教科を活かしたインターンシップを実施する。
- ・各部門が課題研究を充実させ、プロジェクト学習に発展する研究内容になるように努力する。
- ・農業クラブ各種発表会、農業鑑定競技会、家畜審査競技会に向けて事前指導を徹底し上位入賞を目指す。
- ・実験・実習時の安全指導、健康管理指導を徹底する。
- ・実習圃場の整備と保守点検に努める。

10 環境土木科

- ・学習の成果展示や報告会などの実施、資格複数合格や各種競技入賞などを旨とする。
- ・関連企業・団体等への就職、関連学校への進学をクラス全体50%以上を目指す。
- ・学習や諸活動の目的や目標を明確に示し、生徒の計画的で主体的な行動を目指す。

11 食品流通科

- ・地域社会の現状を把握し、課題解決に取り組む。
- ・進路希望の実現に向け、担任のみならず、科内職員が協力し達成に取り組む。
- ・生徒の安全教育とマナーの確立させる。

1 2 造園緑地科

- ・学科対応で実習の整容指導や基本的な生活習慣の徹底・確立を図る。
- ・先輩講話の充実と進路に関する早期動機付けや外部機関との連携協力を図るとともに、造園、建築、土木、測量、設計と造園関連進路を広げる教育活動を行う。
- ・小泉湧公園の活用や造園技術の研修を実施して専門技術を深め、学科の特色を生かした資格取得の合格率を向上させる。

1 3 生活科学科

- ・実習室への入退室、実習時の服装や態度の指導徹底。ものづくりの楽しさと達成感の体得させる。
- ・食物調理・被服（和裁・洋裁）の各1級取得（三冠王）は12人、食物調理1級取得は17人、被服1級取得は15人の合格を目指す。
- ・農業クラブ活動への自主的取り組みと東北大会で最優秀賞を目指す。

1 4 1年部

- ・年間の皆勤者を50%以上とする。年間資格取得を2つ以上とする。
- ・家庭学習ノートの提出率を80%以上とする。
- ・部活動の加入率を100%とする。学年集会毎の「情操教育講話」の実施する。

1 5 2年部

- ・学習に集中できるように教室環境を整える。
- ・1か年皆勤者を各クラス18名以上とする。
- ・キャリア教育を充実させるための学年集会やLHRを5回以上実施する。
- ・学校行事や学年集会を通じて人間関係形成能力を高める。

1 6 3年部

- ・進路受験を意識した、あいさつ・振る舞い方を身に付けさせる。
- ・定期考査における、個人の平均点が70点以上の生徒を学年全体の60%以上とする。
- ・進路目標達成100%を目指す。専門性を生かした職業選択と進学指導を促す。

1 7 国語科

- ・様々な文章を読み、問題点について自分なりに考え、論理的にまとめられる語彙力と読解力を獲得する。
- ・就職試験の課題作文にしっかり対応できる。他者の話をよく聞く姿勢と、場面に応じた、聞き手に分かりやすい話し方を身に付ける。

1 8 地歴・公民科

- ・グループ学習などを通して、旅行計画の立案(地理A)、歴史上の人物評価(世界史A)、DVDの感想・意見を発表(現代社会させる。)
- ・進路実現を意識させるため、自分史の作成(世界史A)、新聞などを題材にした討論、秋田の近代史の活用(現代社会)する。

1 9 数学科

- ・進研の基礎力診断テストでD3を10人以下、Aを10人以上にする。
- ・実用数学検定準2級の合格率を100%にする。
- ・3年環境土木科の専門職公務員試験の数学の正答率を100%にする。

2 0 理科

- ・演習を通じて、各科目の設定目標の80%程度の達成を目指す。
- ・指導内容に基づき、実験観察を最低月1回行うようにする。
- ・理科実験室の視聴覚機器の整備を進め、利用できる環境を整える。
- ・指導内容に各科の特徴・特性に配慮し、各科の専門教科との関連を図る。

2 1 英語科

- ・Can Do Listを活用しながら段階的な指導を工夫する。

2 2 保健体育科

- ・各種の運動の特性に触れる楽しみや喜びを味わうとともに、運動の学び方を身につけさせる。また、生徒が課題を自ら設定し、その解決に向けて主体的に運動に取り組み、自らフィードバックできるようにする。
- ・新体力テストを実施し、その結果を生徒に知らせ自己の体力状況の把握や体力向上への関心をさらに喚起する。また、毎時間の授業において体力向上の為の運動を実施する。
- ・体育授業における体ほぐし運動や体育的行事を通して、安全に対する態度や能力を育成し実践できるようにする。
- ・自らの健康課題において、適切な思考・判断・意志決定ができるよう言語活動教育を通じて生徒の能力を高めて育成する。

2 3 芸術科

- ・練習や制作の成果を堂々と発表できる。
- ・芸術作品や友達の作品、発表を鑑賞して良さを感じ、言葉にすることができる。
- ・歴史や芸術の構成、要素等、知的な活動に興味をもち、理解しようとする。

2 4 生徒会

- ・学校行事の企画・運営などを通して生徒一人一人の自主性や主体性の自己実現を目指すとともにリーダーを育成する。
- ・地域交流活動や高校生交流活動から地域への関わり人との関わりを身に付けさせる。
- ・各種委員会活動の活性化を図る。
- ・金農祭や体育大会などの行事を自主的かつ主体的に企画・運営しようとする生徒の能力の伸長を支援する。
- ・今年度は、文化委員会を活用し、全校生徒一丸となって大成功を収めたい。

2 5 農業クラブ

- ・全国大会での優秀賞以上を獲得する。
- ・農業クラブ活動の活性化と地域社会への貢献に努める。
- ・学科の枠を超えた指導体制を確立する。・練習や制作の成果を堂々と発表できる。